

ともにいのちかがやく世界へ

# 大悲

元本願寺派総長  
蓮 清 典 師  
題字

(第62号)  
2019. 1. 1

昌 平 寺  
昌平寺門信徒会

〒359-0036 所沢市旭町22-8 電話 (04) 2994-8887



築地本願寺報恩講莊嚴

2019年

## 昌平寺行事御案内

- 一、修正会(元旦会) 1月1日(祝・火)  
開門 午前7時  
勤行(後、ご流盃の儀) 午前8時  
昌平寺住職 遠山久敬
- 二、春季彼岸会 3月21日(祝・木)  
勤行 午後2時  
講演 午後3時～4時  
駒澤大学名誉教授 田上太秀
- 三、春まつり 4月7日(日)  
春風亭柳橋一門、フリマ、抽選会  
音楽礼拝他 午前11時～午後3時
- 四、合同墓地追悼法要(第一墓苑)5月12日(日)  
勤行・法話 午前11時～12時
- 五、門信徒総会 6月2日(日)  
勤行・法話 午後2時～3時  
総会 午後3時～4時
- 六、本堂預骨室盂盆会 7月21日(日)  
第一回勤行・法話 午前11時～12時  
第二回勤行・法話 午後1時～2時
- 七、武蔵野墓苑盂盆会 8月4日(日)  
第一回勤行・法話 午前10時～11時  
第二回勤行・法話 午後12時～1時
- 八、本堂盂盆会 8月15日(木)  
勤行 午後2時  
法話 午後3時～4時
- 九、秋季彼岸会 9月23日(祝・月)
- 十、開基住職小畑俊哲忌 11月2日(土)
- 十一、報恩講 12月1日(日)
- 十二、成道会の集い 12月7日(土)



# 新年ご挨拶

## 新たななる歡喜の光を浴びて

昌平寺住職 遠山久敬



新年明けましておめでとございます。

昨年度も、門信徒のみならず、一方ならぬご支援とご協力のおかげにより、各行事も滞りなく勤修することができました。

改めて御礼申し上げます。

また、今年も一月一日の修正会（元旦会）をはじめ、新しい行事も計画しておりますので、ぜひお誘い合わせのうえご参加いただき、凡夫が幸せになる道、往生浄土の道を聴聞し、共に一念仏いたしましょう。

明応二年（一四九三年）蓮如上

人七十九歳）山科西念寺の開基・道徳が、蓮如上人のところに年始の挨拶に見えたときの出来事です。

『蓮如上人御一代聞書』より

勸修寺村の道徳、明応二年正月一日に御前へまゐりたるに、蓮如上人仰せられ候ふ。道徳はいくつになるぞ。道徳念仏申さるべし。自力の念仏といふは、念仏おほく申して仏にまゐらせ、この申したる功德にて仏のたすけたまはんずるやうにおもうてとなふるなり。他力といふは、弥陀をたのみ一念のおこるとき、やがて御たすけにあづかるなり。そののち念仏申すは、御たすけありたるありがたさありがたさと思ふところをよるこびて、南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏と申すばかりなり。されば他力とは他

のちからといふところなり。この一念、臨終までとほりて往生するなりと仰せ候ふなり。

と、新年の挨拶に来られた道徳に、一般的な挨拶もなく、いきなり「いくつになつても、道徳念仏申さるべし」と往生の要を話され、本年も、何をおいても弥陀を頼む一念と念仏申し往生浄土の道を歩むこと。『念仏成仏これ真宗』の妙義を、年の初めにまず確認される蓮如上人それは、一番大切なことは、世間のこと、それぞれの健康のことではなく、私（煩惱具足の凡夫）が救われる道を常に確認確立して称名念仏することであると、言うことでもあります。

現代にあつても、同じであります。私の身を案じて、私を幸せにする、私を必ず浄土にまいらせて仏にする。と誓い、五劫の間思惟修業され、阿弥陀仏になられた法蔵菩薩の願を常に聴聞し弥陀をたのみ念仏を、日常の生活としたいものです。

親鸞聖人も和讃の中で

①十方微塵世界の

念仏の衆生をみそなわし  
撰取してすてざれば

阿弥陀となづけたてまつる

②弥陀大悲の請願を

ふかく信ぜんひとはみな  
ねてもさめてもへだてなく  
南無阿弥陀仏をとなふべし

③弥陀の本願信ずべし

本願信ずるひとはみな  
撰取不捨の利益にて  
無上覺をばさとするなり

④弥陀の尊号となえつつ

信樂まことにうるひとは  
憶念の心つねにして  
仏恩報ずるおもいあり

①は、『浄土和讃』

②③④は、『正像末和讃』

とお示しくださつておられます。  
本年も、聴聞を深め、念仏申す  
日々をおくりましょう。

それでは、みなさまで親鸞聖  
人からのお屠蘇をいただきま  
しょう。

ご流杯の儀は一月一日八時ス  
タートです。



# 孟蘭盆会法話

本願寺派布教使 宮本義宣



私たち真宗門徒の精神性（メンタリティー）はどのような育まれ、どのような精神性が育まれてきたのでしょうか。

私が住職を勤めているお寺には、面白い掛け軸があります。東洋大学の創始者の井上円了先生の書です。井上円了先生は、新潟の真宗大谷派のお寺の出身です。この書には、髑髏の絵が書いてありまして、そこには、釈迦達磨も 耶蘇も孔子も 死なばみな 同じ覇者のすかたそとなり

と書いてあります。これは仏教の世界観です。これと同じことを言っていた

方がいます。それは徳永サノさんという方です。「佐賀のがばいばあちゃん」と言ったら、わかる方もいらつしやるかと思いません。島田洋七さんのおばあさんです。このおばあさんが日頃言っていたことを孫の島田洋七さんが思い出し、本にまとめました。その本は、面白いと話題になりました。

がばいばあちゃんは、よくお寺に通っていたそうです。がばいばあちゃんの名言集を読んでいると、これはお寺で聞いたことだろうなと思う言葉があちこちに出てきます。先ほど、井上円了先生の言葉と似たことを言っていると申しました。それは、「聖徳太子も死んだし、徳川家康も死んだ。うちのじいちゃんも死んだばい。そして私もいつか死ぬ。それまでは一生懸命や」です。これは「死を基点にして、

生を考えるスタンス」です。仏教は死を通して生を学んできました。死を基点にしてどう生きるかを考えてきたのが仏教です。

仏教は、死はすべての終わりでないことを二千五百年間説き続けてきました。「私であつて私ではないのちが浄土に生まれていく。それは、自分の力で生まれていくのではなく、阿弥陀さまの力によって生まれていく。だから間違いがないんだよ。わがいのちの行きどころは阿弥陀さまにまかせていきなさい」と教えてくださったのが親鸞さまです。私たちのメンタリテイもここにあります。ですから、この娑婆の世界は何があつても大丈夫と生きることが出来るのではないのでしょうか。

備後という地域があります。岡山県と広島県にまたがる地域で、篤信な浄土真宗のご門徒さんがたくさんいらつしやいます。以前、備後の地域で行われた研修会に伺ったことがあります。その研修会では、小グループに

分かれて話し合いをする時間がありました。

各グループの様子を見て回っていると、あるグループで夫を亡くされたおばあちゃんが話をしていました。その方は夫婦でよくお寺のご法座に通っていたそうです。ご主人が亡くなる一週間ほど前にそのおばあさんに「本当に阿弥陀さまは迎えに来てくれるんじやるか」と尋ねたそうです。そのときおばあちゃんは「あんた何言つてんの。今ここに阿弥陀さまはおられるじやろ」と答えたというのです。すると、ご主人は「ああそうか」と言つて安心した顔をしたというのです。その時、そう答えることができたことで、本当にお寺に通つてよかったとお話ししていました。自らの死を目前にした時、不安に思つておばあさんに確認したかったのだとおもいます。

わがいのち（生老病死）が私のかかかわる最大のテ-



マです。それに真正面から向きあつてきたのが仏教です。とりわけ浄土真宗の教えは、「いのち尽きた時、阿弥陀さまのおはたらきによつてお浄土へと生まれさせていただく」と聞き続けて

きた。このことがどういった意味があつたのか。それをわが世界観、価値観として持つて生き、いのち終えていける。「死んで終わりのいのちじゃないんだ」ということです。

## 秋季彼岸会法話

西芳寺副住職 本願寺派布教使

園 淵 和 貴



ままに、私の口から、お念仏として、こぼれ出てくださる仏さまです。

阿弥陀さまは、ぼやつとした概念のような仏さまではなく、お念仏という具体的な姿をもつて、この身にこ一緒にくださいます。

阿弥陀さまは、名号撰化の仏さま。仏さまご自身が、おさとりのお値打ちそのままに、「南無阿弥陀仏」のお名号となつて、今、私のこの身いっぱい、この命いっぱい満ち満ちてくださいます。

それだけじゃありません。

「南無阿弥陀仏」のお姿その

出ます。

なぜ、当然のように、きれいな水が簡単に出てくるか。

それは、水道管がつながれていて、その先に浄水場があつて、その先に水源があるからです。

蛇口をひねつたら、水道管がつながつていつて、浄水場の建設が始まるわけではありません。

簡単に出てくる水の、そのもとをたずねると、計り知れないほどの時間、お金、人手をかけて完成された大仕事、先にあつたのです。

だから、今、蛇口をひねるただそれだけで、飲めるほどの水が、あふれ出します。

お念仏も、少し似ています。

この口を、水道の蛇口になぞらえると、この口からは、南無阿弥陀仏が出てきます。

なぜ、当然のように、尊いお名号、「南無阿弥陀仏」が出てくるか。

それは、阿弥陀さまのご苦労があるからです。

お念仏をしたら、阿弥陀さま

が立ち上がつて、じゃあ救おうか、と動き出されるわけではありません。

簡単に出てくる南無阿弥陀仏の、そのもとをたずねると、計り知れないほどのご苦労があり、完成された大仕事、先にあつたのです。

だから、今、お念仏をしようと思うだけで、南無阿弥陀仏があふれ出します。

そのご苦労について、お経さまには、五劫、兆載永劫と説かれます。私たち人間には計り知れないほどのご苦労がある。

そのご苦労について、『仏説無量寿経』を仰ぐと、過去五十三仏が説かれます。これは、何を教えて下さるか。

一つの味わいとしては、私たち、これまで鍔光如来をはじめとする五十三仏とともに、その時間を過ごしてきたとお聞かせいたできます。ですが、どの仏さまのお説教の会座に連なつても、何度、そのご教化にあずかつて、おさとりに至ることは、全

水道の蛇口をひねると、水が



くできなかつた。五十四番目の  
仏さまとして世自在王仏がお出  
ましになったとき、法蔵菩薩と  
いう阿弥陀さま因位の菩薩さま  
がおられて、おっしゃいました。  
「私は、一歩たりともお悟り  
に近づくことで、泣いてい  
るこの子を救えるような仏にな  
りたい」と、私を背に、師仏で

## 新年ごあいさつ



昌平寺門信徒会会長

縄田 脩

新年明けましてお目出度うご  
ざいます。会員の皆様におかれ  
ましては明るい新春をお迎えに  
なされましたこと、役員一同心  
からお慶び申し上げます。

今年で平成という年号は最後

ある世自在王仏に宣言されたの  
が、讚仏偈です。

そして、五劫、兆載永劫のご  
苦勞を果たし遂げ、今、南無阿  
弥陀仏とご一緒くださるのが、  
今、この口に恵まれる、お念仏  
であるとお聞かせいただきます。

合掌

となり、五月から新しい年号が  
始まります。平成天皇は象徴と  
して即位された初めての天皇  
で「国民の象徴とは何か」を皇后  
とともに考え続けてこられた  
ものをご推察します。そのお気  
持ちを、国民の幸・不幸にしつ  
かりと寄り添い、喜びも悲しみ  
も国民とともに分かち合おうと  
されたお姿に感じています。即  
位前に五度、即位後六度、沖繩  
を隔から隔まで訪問されたこと  
は天皇のお心の底にある沖繩県

民への深い思いの現れのように  
思います。

ご退位後もお揃いで、お健や  
かにお過ごしになられますこと  
を国民の一人として祈っております。

昨年は七月の西日本の集中豪  
雨、九月の北海道胆振東部地震  
と大きな災害がありました。被  
災された方々の一日も早い生活  
の立て直しを心から祈るばかり  
です。

六月の門信徒会総会でご報告  
致しましたが、最大時千二百名  
を越えた門信徒会会員数が昨年  
千名を割り込んで参りました。  
そこで、「大悲」九月号に掲載  
致しましたように、住職と連名  
で会員募集のチラシを作成し、  
昌平寺僧侶の方々のご協力を得  
て広く門徒の方々に加入の呼びか  
けを行って参りました。その結  
果二名の方と新しいご縁が出来  
ました。会員の皆様にも是非身  
近な方へのお声かけをお願い申  
し上げます。

昌平寺はご聴聞の場として仏

事、定例法話会、年間行事等で  
門徒の方々にご縁を頂いており  
ますが、更にご縁を深めるため  
に、元旦の新年会、春の花祭り、  
成道会、仏歌練習会などを催し  
ております。

門信徒会では、「大悲」発行  
の外、茶話会、書写(写経)の  
会、秋の一泊研修旅行、忘年の  
つどい等を開催し、会員の皆様  
とお寺の橋渡しをしております。

会員の皆様には是非お寺にお  
運び頂くことをお願い致します。  
とともに「大悲」は、お寺と会  
員の、会員同士のご縁を深め合  
う情報交換の場です。「大悲」  
へのご投稿をお願いし、昌平寺  
を軸としたご同朋として思いを  
共有致したいものです。

最後になりましたが、本年も  
皆様にとつてよりよい年であり  
ますようにお祈り申し上げます。  
私も役員も、全力を挙げて皆  
様のお役に立てるように努めて  
参る所存です。

宜しくご指導、ご鞭撻賜りま  
すようお願い申し上げます。



# 研修旅行に寄せて

## 研修の旅（一日目）

本願寺派布教使 小木尚文



旧暦長月朔日新暦十月九日早朝、昌平寺駐車場に今回参加の門信徒の方々が集まり、ご本尊様に御挨拶をすませバスにていざ越後へ出立です。

それぞれ顔見知りなれど緊張ぎみでの旅立でありました。確かに弥次喜多さんの物見遊山と違い、聖人の御跡を偲ぶ研修旅行なればそうでありましょう。今回の旅の企画立案をされた門信徒会長、幹事の方々には本当に感謝であります。

みずからの足で歩いてゆける旅ではありません。バスの運転手の方の腕を信じて連れて行ってもらおうおまかせの世界、行く先々での昼食・入場拝観等々の手配すべて先に先へのお手回しなれば、浄土真宗はありがたいなあと思っております。

車中では酔う水も少々？体にとり入れ、昼餉を頂きガイドの方の奮闘努力のおかげで！！穏やかな雰囲気の中での国府別院到着であります。

ここは聖人が恵信尼様とお暮しになった草庵の跡地であり、本山の意向をくみ御門徒衆の努力とお念仏の力によって建立された別院であります。

本堂にて遠山住職調声のもと、阿弥陀様・親鸞様に讃仏偈にて

の御挨拶をしました。御同行それぞれの念仏なれど、実は一味の同一念仏であります。御輪番のお話しの後、宗務員の方から別院にまつわるお話しを伺いました。本堂は総樺造りで、御内陣須弥壇上に阿弥陀様と聖人がならんで安置される独特な様式の華麗な荘厳に目をうばわれます。

しかし私は、本堂外陣正面上に掲げられた額の「恩徳発信場」に心ゆさぶられました。

この場所は阿弥陀様にこうべをたれて聖人に手を合せ信順していく場所なのでしょう。

それぞれの想いを抱き本堂前での記念撮影のあと居多ヶ浜へ。

ここは弾圧により流罪となられた聖人が初めて越後に上陸された地、海まで行きませんでした。高台から広がる海をながめるにこのあたりの砂浜で間違いはないでしょう。北の海はもの悲しいと言ったのは誰であつたか忘れましたが、佐渡に向きあう新潟の海、今日の居多ヶ浜

は波穏やかなれど一抹の侘しさが漂う。

海を見た事がなかったであろう聖人にとって、こののち海は多大な影響を与えていく。念仏ゆえの罪人とされた聖人、御本典「教行信証」の中に怒りと悲しみを書き留められています。一番の悲しみは法然上人の四国流罪であったと思います。二度と会えぬかもしれぬ師への思いはいかばかりであったか、しかし聖人の嘆きは新しい生き方に変わっていかれた。この弾圧流罪は多くの人にお念仏をすすめる為の法然上人のおぼし召しとただかかれていく。この居多ヶ浜は聖人の衆生済度の出発点となり、私達同朋にとつて有縁の地でありました。

この後バスは良寛記念館へ立ち寄りしました。良寛さんは禅僧なれどお念仏で救われていかれた方でありました。

今夜の宿は岩室温泉、夕餉は和やかに酒食そしてカラオケの宴にての親睦会。あとは野とな



れ山となれ、明日は明日の風が吹く・・・

唯々「南無阿弥陀仏」の一日

でありました。

皆様ありがとうございました。

合掌

## 研修の旅（二日目）

井上正夫



それは、弥彦神社の上の西生寺にあるとのこと。約六百年前、六十歳代で百七十cm位のお坊さんが生きながら成仏した話。

昔はこのようなことが、全国のあちらこちらであり、そんなに珍しい話ではなかった。

ちよつと今では到底考えられないような、すごいリアルで心が凍るような言い伝えである。

次の話は、田中角栄元首相の生家を通り伝説の出世談！

長岡の花火大会！そして、山古志村の地震の話と次から次へと、ガイド嬢の饒舌は尽きることがない。しばらくすると、新潟一の漁港の寺泊港に到着する。

おみやげ目当てに特に女性陣は好奇心と期待感の極みだ。

やがて時間となり、鮮度の良い魚介類のお土産でいっぱい。やっぱり女性は買い物好きを、見事に証明した瞬間である。

次は、男性陣の大好きな酒造工場の見学。朝日酒造は有名な「久保田」を始め「越州」「得月」等を日本全国に製造販売している会社である。

工場も以前の、国立競技場を彷彿させる様な頑丈でどんな地震がきても微動だにせぬ感がある。

案内嬢も洗練されたトークと何とも言えぬスマイルで話に聞きほれてしまう。

たくさん質疑応答にも難なく答えて、相当勉強し訓練されているようである。

最後に販売棟に行き説明され吾輩は飲まない酒を何故か三本も、買ってしまった。

味見（試飲）もしないで、「ウウウンまあいいか！」やがて、お昼になり昼食の時間となった。やっぱり、米どころ新潟だけあり特にご飯は絶品

だ。日頃、粗食の小生は特においしく感じられた（実は歩き過ぎて空腹のせいかも？）

腹ごしらえも終え、最後の見学地西福寺・開山堂へ向った。曹洞宗のお寺で、五百年以上の歴史の重みと他に類を見ない手作りの温かさが滲み出ている。

開山堂は、曹洞宗の開祖「道元禪師」と歴代の住職が祀られている。また開山堂内外には、名匠石川雲蝶の彫刻や絵画が施されている。透かし彫りの繊細さと極彩色の鮮やかさで、見る人を唸らせている。これで、研修旅行も終わりに近づきました。

あつという間の一泊二日の短い時間ではありましたが、充実の二日間。平成は震災が多く日本だけでなく、世界中で悲しい出来事が続いたように思える。私は、平和主義者であり世界の戦争がなくなることを願っている。しかし、戦争は一向になくならず逆に、始まっている地区もある。ましてや、私の範疇では思想と宗教は自由であり到底

は思想と宗教は自由であり到底

今日、十月十日は前回昭和三十九年東京オリンピック開会式の日であり雨が降らない日。ジンクス通り天気は晴れになり、ほぼ定刻通り、「めんめん亭わたや」を出発。バスは次の目的地の寺泊港へと向かう。車中のガイドさんの話がとてもひつかかる。耳を傾けると日本最古の即身仏があるとのこと。「即身仏」という言葉を始めて聞いた。



考えられない。

「神のみぞ知る」という言葉があるが「戦争ほどの神様がやめさせるのでしょうか」それとも神様はいないのでしょうか？何を信じればいいのか？

今回はどんな旅行だろうというところで、「一抹の不安と、反面何が起こるだろうとの期待」で、いっぱいでした。しかし、「案ずるより産むが易し」とはよく言ったものだ。そんな不安はどこ吹く風か、バスに乗った瞬間吹き飛んでしまった。

滅多に行くことが出来ないお寺に相應しいコースの設定。ホテルでは、接客・風呂・料理すべて満足できました。

そして、宴会ではカラオケ・かくし芸等々。とても、楽しく時間の過ぎるのを忘れてしまいました。昔、田舎の両親がお寺の旅行に、しょっちゅう行きたがっていたのが分かりました。そんな中、一番良かったことは、参加者全員の人とじっくり話せて、皆様の暖かさを知ること

とが出来たこと！  
有難うございました！

感謝  
南無阿弥陀仏  
合掌

### 写真で見る研修旅行



昼食



バス内で



本願寺国府別院本堂にて



本願寺国府別院



良寛記念館



居多ヶ浜にて



宴会 乾杯



めんめん亭わたや サア出発



朝日酒造前で



# つれづれ

## 心に残る越後路

昨年十月恒例の研修旅行は、親鸞様ゆかりの新潟への二日間でした。初めて参加された方が五名という嬉しい事も重なりました。

昌平寺さまとは古くからのお付き合いが続いている本願寺派布教使の小木尚文師・長崎県諫早市出身の井上正夫様・門信徒会橋本公子様のご友人澤田三重子様・昌平寺で墓苑の清掃管理をして下さっている矢形征治様・縄田門信徒会会長の奥様、真紀子様の方々の初参加を加えて二十六名という楽しいバス旅行でした。

最高齢で元気にご参加下さった岡屋忠利さまは、心に残る景色を何枚かスケッチされて車内でその絵を水彩画として完成さ

せておいでになったお姿はとても印象的でした。

お釈迦様によって説かれた仏教はシルクロードを通って伝えられました。親鸞様三十五歳の折に遠流となり上陸された居多ヶ浜の地。そこで「御恩報謝の念仏」のもと民衆と共に歩まれた親鸞様、シルクロードの最終地点とも云われている日本海を臨む居多ヶ浜は、国府別院をお参りさせて頂いていた私達の心に多くの想いを味あわせてくれました。

六頁からの小木尚文師・井上正夫様の旅行記をお読みいただき、次の旅に思いを馳せて下さいますように。

遠山住職はじめ楽しい雰囲気を感じ上げて下さった皆さま、本当にありがとうございます。

## 定例法話会・茶話会の

### お知らせ

今年から法話会・茶話会の内容が変わります。

一・七・八・十二月の休会月以外の第三火曜日は変わりますが、時間は午後開始になります。

## 法話会午後一時～二時 茶話会午後二時～三時

茶話会には法話会講師の同席で、お聴きした法話の質問・疑問等を遠慮なく話し合える場にした。このお寺の思いが込められています。

従来ではお昼をはさむ形となっており、そこでひとつの区切りが出来てしまうためにご参加の方が少ない状態となっていました。

今後は、講師の先生に質問できる時間・皆様方の生き方に対するお話を気軽に出来る場として、お寺が考えて下さった貴重な時を使わせて頂ければと願っております。

一月より変わります。  
お間違いないように  
よろしくお願いたします。

## 書写（写経）の会

法話会のない月の第3火曜日  
1月、7月、8月、12月  
午後1時～3時

講師 香月瓔石（栄爾）  
テキスト 「正信偈」「重誓偈」  
「讚仏偈」「御文章」  
会場は和室（椅子席）です。  
筆ペンを使用します。

## 第3火曜日

法話会 午後1時～2時  
第二本堂  
茶話会 午後2時～3時  
和室（椅子席）

（講師は昌平寺僧侶、他各師）  
注）1月、7月、8月、12月は休会とします。





平成三十年十月二十三日

深見けん二選

秋晴や配流を偲ぶ居多ヶ浜

浅上 勝敏

木の実降る良寛さまの五合庵

浅上 寿子

鳩居堂の手荷物小さし秋風裡

新井 雪江

秋晴や札所巡りて満願す

池田新八郎

秋天の澄みわたる果て富士の山

香月えいじ

昨夜の雨今朝はからりと秋日和

木谷 英子

木の実寄せ作品展の児ら笑顔

木下 尊子

木の実降る市民の森に子らの声

久保田よしみ

抱き上ぐる子に秋晴の雲ひとつ

小泉 洋一

団栗の転がつて来る靴の先

芝 高子

図書館の脇道行くや木の実落ち

志摩 角美

秋晴の天覧山に長き列

鈴木すぐる

刈り込みし寺の庭園秋深む

鈴木 征子

登りつむ秋晴の海見ゆるまで

高橋 敏子

秋晴を使ひ果たしぬ古寺巡り

永井 潮

秋落暉水平線に今日の旅

縄田をさむ

遠くから我名呼ばるる十三夜

福田 敏子

漆黒の山脈峨々と十三夜

馬越やす子

\* \* \*

ゆるみなく昨日に続き秋日和

深見けん二

昌平寺俳句会御案内  
 毎月第四火曜日  
 締切 十時  
 場所 本館和室  
 句数 七句  
 どなたでもご参加いただけます。



# まずお寺へ

皆様方は、御家庭の御仏壇に朝に夕にお手を合わせていらっしやいますね。

本堂は家庭の仏壇の延長線にあるものです。俱に心のよりどころとしてお気軽に御参りください。昌平寺は皆様のお寺です。お葬儀の相談、お墓、仏塔の購入、お遺骨の一時預かり、ご法要の相談、ご仏壇の購入、ご本尊入仏慶讃法要等々仏事の事なら何なりと迷わずにご相談ください。また、昌平寺では、年一度皆様方にお送りしております年間行事表、大悲の冒頭にも掲載してありますように年間を通して十回の仏行事があります。ご家族お揃いで御参りください。本願寺でも有名な先生方をお招きしての御講演、定例法話会もありますので、ご聴聞ください。更に門信徒会による茶話会、書写の会、昌平寺春まつり、年一回の昌平寺門信徒会の新睦をは

かる研修旅行等の行事もあります。ご参加ください。お待ちしております。

最近、テレビ、新聞、週刊誌等で話題になっております葬儀において、納得のいかない請求が多々発生し、トラブルとなることしばしば見受けられるようです。

葬儀業者の当初の見積り金額、ネット等で調べた金額と大幅に請求金額が違うこともあると聞いております。

やり直しのきかない葬儀ですから各自が細かい部分まで十分に確認され納得されたうえに、ご契約いただければと存じます。

お葬儀の契約についての苦情の増加は、葬祭業の営業に許認可制がなく新規参入がしやすいという背景があるほか、突然訪れる身内の不幸に動転して、業者のペースで契約してしまうことが多いようです。

こうしたことから、ご葬儀は出来るだけご本人が生前にご家族と話し合いの上、お葬儀の予

算、ご参加者予定人数・お知らせする方々の住所、氏名、ご家庭の宗派、遺影のお写真、斎場等についてご家族と相談してあらかじめきめておくことご安心いただけます。

お葬儀については、まず昌平寺にご相談ください。信頼できる葬祭業者をご紹介させていただきます。

当昌平寺では葬祭斎場二ヶ所、法事本堂二ヶ所を備え、ロビー、駐車場も整備してご来寺のお客様に不便のないよう努めております。

預骨室のご利用、墓地については、墓苑をお持ちでない方に、当寺では仏塔（永代供養付き合同墓所）、また残りは少なくなりましたが、墓地のご用意もありますし、その間のお預かりも出来ますのでご利用ください。

なお、当昌平寺では、従来どおり門信徒の方々にご奇進をお願いすることは一切ございませんのでご安心ください。

合掌

## 編集後記

謹賀新年

本年もよろしく願います。異常気象に見舞われ、災害に終始した平成最後の年も過ぎ、新しい年を迎えました。五月一日には皇太子が新天皇に即位、新元号となり、新時代のスタートです。

私は幼少時代、鳥取の田舎で、お寺を庭のようにして遊び、育ちました。妙好人「因幡の源左」の出身地で源左さんの話しを何度も何度も聞きました。泥棒をさとしつつ、警察に告げなかった話とか、雨にあって大変だったのに「鼻が下を向いているから有難い」と言ったとか。源左さんの口癖は「ようこそ ようこそ」（有難うの方言）でした。何事にも常に感謝の気持ちをして生きていたそうです。

新しい年に向け、縄田会長始め、編集部員も、より新しい、より読みやすい「大悲」の紙面作りを目指しています。感謝の気持ちを見失わず、良き年を生きていきたいものと考えています。「ようこそ ようこそ」

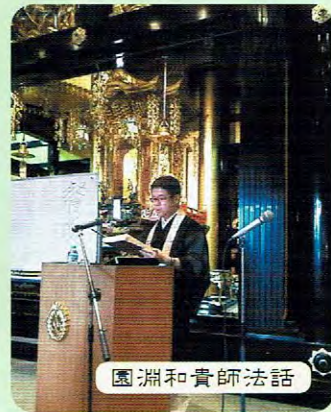
新八郎



# Topics



秋季彼岸会



國淵和貴師法話



盂蘭盆会



開基住職・小畑俊哲忌

秋の研修旅行

親鸞聖人御上陸の地 居多ヶ浜



見真堂の聖人像

日本海を背に遠山住職を囲んで



本願寺国府別院にて



縄田会長



宴会は大盛況